

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
サポートキッズみどりまち		令和8年 3月 31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	4	広く使えるよう室内や屋外とグループに分かれて活動を行ったりしている。	広く使えるよう工夫を行っているが、室内レクになると狭さを感じる場面がある為、今後も工夫して行っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	14		こどもの状態を共有し配慮できるよう工夫している。	児童の状態によっては対応に職員がとられてしまい人手が足りないことがある為、一人一人再度スキルアップを目指していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	2	バリアフリーで玄関前を坂にして車いすの方でも通れるように工夫している。児童がわかりやすよう名前や取り組みやすい同線を作って取り組んでいる。	雨などで滑りやすくなってしまうこともある為、砂利などを含めたベンチなどを使って安全面を確保していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	3	4sを徹底して行うことで清潔を保ち児童たちが心地よく過ごせる空間を今後も提供していきたい。	もう少し落ち着いて過ごせる環境を今後も提供していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	2	一人一人が使えるよう工夫して行っている。	同時間帯にかぶることがあり、部屋が足りないことがある為、改善が必要。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	3	事業所の定休日がある週に集まって参加できるよう工夫している。	午前中から児童がいたりして話す場が少なくなってしまうことがある為、改善が必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	3	評価をもとに順番よく改善できるよう話し合いの場を設けて工夫している。	全体で集まることができないことがあり、全職員からの意見を聞いて業務改善するまでに時間がかかってしまうことがある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		一人一人と面談を行い、業務改善に組み込んで話ができるよう工夫している。	話を聞いてもらう機会は多くあるが、全体で話をする場面が少ないため、増やしていけるよう取り組んでいく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	8	外部評価は現状行っていないが社長などを交えて業務改善につなげている。	今後第三者や外部評価などにも積極的に行っていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	13	1	法人会議や研修動画などで機会を確保できるよう工夫している。	今後は現場で活かせる研修や情報共有を多く取り入れていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	1	保護者が見れるSNSや事業所のHPなどで公表を積極的に行っている。	今後は保護者への配布や個々に送信して再度周知していけるよう取り組んでいく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13	1	日々の支援の中で個々にの様子を職員と共有しながらアセスメントに落とし込み、児童や保護者のニーズを踏まえて作成を行っている。	今後も引き続き行い、一人一人の成長を伸ばしていきたい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	1	職員と共有しながら行い、支援者会議の中で児童の最善を考えて話し合いを設け、作成を行っている。	今後も引き続き行い、児童の最善の利益を考慮して行っていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	4	作成後に再度職員と共有を行い同じ支援ができるよう工夫している。	共有はしているが反映できていない場面もある為、再度全職員が同じ認識をもって支援をすることができるよう取り組んでいく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	1	独自のアセスメントを使用し行っている。	独自のアセスメントでは評価する人で変わってしまう場合もある為、改善および取り組み方を再周知する必要がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13	1	ガイドラインに沿って適切に設定を行い、具体的な支援内容を記載し、誰が見てもわかりやすく作成を行っている。	引き続き取り組んでいく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	1	チーム全体で立案を行い、工夫して行っている。	チームで行ってはいるが、日によっては進め方が違う場合もある為、再周知するためにも毎日の話し合いを今後取り入れていく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		固定化しないよう専門的な観点からプログラムを作成したり、現状にあった活動を行ったりして工夫して行っている。	引き続き児童が楽しく学べるプログラムを提供していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	2	適宜組み合わせながら行っている。	今後は細分化しながら個別活動を今以上に有意義のある時間にすることができるよう取り組んでいく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	6	常勤職員での話を主に行い、確認するよう工夫している。	場合によっては話し合いがでずに細かな確認など行えないことがある為、職員が全周知できるよう前もって取り組んでいきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	1	朝や帰り、お昼などに振り返りを行い、全体でフィードバックを行っている。	できていない日もある為、今後は話し合いの場を多く設けて取り組む時間を増やしたり、共有できるツールを使って徹底して行えるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	1	一人一人の記録をとる中で、支援の方向性や改善に努めている。	話し合いを持つ場が少なく全体周知まではできないこともある為、今後は話し合いの場を増やしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	1	定期的に行うことはもちろん、気になった様子が見られた際にも見直しの検討を図っている。	もっとたくさんの話し合いの場を設けていく必要がある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	13	1	固定化されないよう複数組み合わせで日々の活動支援を行っている。	地域交流に力を入れて動いていきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14		自己選択する場面を増やして取り組む中で、自己決定力を育めるよう工夫している。	場合によってはできていない場面がある為、一人一人と向き合う中で、更に取り組めるよう改善していきたい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14		児発管や専門職、その他の職員で参加し、できない際には事前に情報を共有して行っている。	今後も状況を理解して参画できるよう取り組んでいきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12	2	会議などを通して支援を行う体制を整えている。	全員ではないため、今後は積極的に連携をとっていけるよう改善していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	1	スクリレや送迎時に対応したり、会議や連絡を取り合って行っている。	今後も積極的に連携をとれるよう行っていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12	2	児童発達支援事業所との連携をとって相互理解に努めている。	保育所とは関わる機会が少ないため、今後は積極的に行っていけるよう努める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	4	体制は整えている。	対象児童がいないため、今後は積極的にやっていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	6	児童発達支援センターが主催する研修に参加するよう機会を設けている。	スーパーバイズや助言等は訪問の際しかないので、連携をとれるよう行っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	12	2	児童館や学童クラブとの活動を長期休みなどに組み込み参加できるように取り組んでいく。	地域の学童交流や、こどもとの活動をする機会を増やしていけるよう行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	6	相談員などに話をして伝えるように工夫している。	現状参加する場面は少ないが今後積極的に参加を行っていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	2	積極的に行っている。	今後も共通理解が図れるよう取り組んでいながら、日々の支援を行っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	7	事業所で行って自宅でもできそうな支援方法を伝えるよう工夫している。	今後は研修などにも力を入れ、家族支援プログラムを積極的に取り組んだり、研修等に参加していただけるよう取り組んでいきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		契約時に行っている。また質問があった際や、年度毎に確認を行っている。	今後も丁寧な説明を行い理解して頂けるよう取り組んでいきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	1	モニタリングや個別支援計画の説明の際に意向を確認するよう努めている。	意向を確認する機会を増やして最善の利益の優先を図れるよう今後も積極的に行っていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14		保護者と確認する機会を設けて同意を得ている。	今後も支援内容に相違が無いよう説明の義務を果たしながら同意を得ていけるよう取り組んでいく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	1	困りごとや悩み等保護者からの意見に対して積極的に助言できるよう取り組んでいる。	保護者会などを積極的に設けて相談できる環境をもっと増やしていけるよう取り組んでいく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	13	1	家族で参加できるイベントを開催し、兄弟も一緒に参加できるよう取り組み、交流する機会を設けている。	取り組みを増やして交流する機会を増やしていけるよう今後も取り組んでいく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	1	委員会や責任者窓口を置き、すぐに対応できるよう取り組んでいる。	今後も継続して取り組む中で改善につなげていけるよう努めていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14		日々の活動をSNSを通じて発信することで、保護者が児童とコミュニケーションを図れるよう取り組んでいる。	今後も積極的に発信する中で連絡体制を強化できるよう努めていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14		鍵付きの書庫や、ウイルス対策を行ったり、職員一人ひとり秘密保持契約を結んだりする中で個人情報の取り扱いには細心の注意を行っている。	今後も細心の注意を払いながら留意していきたい。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14		連絡や送迎の際に情報伝達を行い、意思疎通が取れるよう取り組んでいる。	今後も情報伝達を行いながら、意思疎通がスムーズに取れるよう取り組んでいきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	6	近くの公園にて地域住民の方と交流する機会を設けている。児童館の行事には参加する場面が増えている。	行事などへの参加は現在行っていないため、今後は積極的に図っていけるよう取り組んでいく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	2	研修に組み込む中で訓練を積極的に行い、実施している。	今後も周知をする中で様々な想定を行い取り組んでいく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	1	策定し定期的に訓練、研修を行う中で緊急時にも対応できるよう努めている。	今後も発生時に備えて安全に行動できるよう定期的に行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14		事前にこどもの状況を確認保護者と契約時などに確認し、服薬依頼書などを活用して行っている。	今後も積極的に行っていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	1	現在医師の指示書があるアレルギーの児童はいないが、確認のためキッチンにアレルギー表を作り確認を行っている。	今後指示書があった際には積極的に取り組んでいく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	3	安全計画を作成し研修などを積極的に開催し安全管理を積極的に行いながら支援を行っている。	今後も訓練を行いながら安全管理を十分に行い支援できるよう努めていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	2	SNSを通じて取り組み内容を公表したり、契約時にも周知できる努めている。	今後も積極的に周知を行う中で、安全確保を連携して取れるよう行っていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	1	事業所内で共有し再発防止に向け検討後、フィードバック行っている。	今後も検討会を積極的に行いながら再発防止に努めていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		研修会を積極的に行い、対応事例も検討しながら適切な対応ができるよう努めている。	今後も虐待を防止するため、研修会を増やして職員の意識を高めていけるよう取り組んでいく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	1	現在対応児がおらず記載は行っていないが、契約時ややむを得ない行動前が見られた際には保護者に説明を行い、すぐに記載して取り組めるよう工夫している。	再周知のために保護者会や連絡網を通して行っていきたい。